

大同の九龍壁

鄧仁有

皆様、これから九龍壁についてご案内します。

九龍壁というと、先ず北京の北海公園の中にある九龍壁が思い出されますが、あにはからんや山西省大同城内には、その2倍近い大きさの九龍壁が建てられています。明の初代皇帝朱元璋は第十三王子朱桂を代王に任じ、大同に王府を築き北方の異民族に対する守りを固める役目をさせました。この九龍壁はその代王朱桂の邸宅前に建てられた障壁です。明の洪武二十五年(1392年)、北海公園の九龍壁より350年あまり早く作られました。

大同の九龍壁は幅45.5m、高さ8m、厚さ2mあり、426枚の彩色瑠璃タイルを龍の形に組み合わせて作られています。龍と龍の間は水草や山石などのデザインで繋いであります。大同の九龍壁は北海公園の九龍壁に比べて異なる風格があります。龍壁の真ん中の龍の作り方はおおらかで、荒っぽく、それでいて洒脱で、全体が力強く、人々の目を引きまします。一方、北海公園の龍壁の真ん中の龍は清の時代の特徴があり、精細です。

全体の構図から見れば、大同の龍壁は九龍が波濤の雲海の中を躍動し水に戯れるデザインで、真ん中の龍を中心とし、その左右対称的に薄黄色い行龍(動いている龍)があり、その外側に黄色の盤龍(身体を丸めている龍)があり、さらにその外側に紫の飛龍(飛んでいる龍)があり、一番外側には座龍(座っている龍)があります。九龍の姿勢とスタイルはそれぞれ異なっています。曲がりくねったりするのも有れば、頭を上げて飛ぼうとするものも有ります。北海公園の九龍壁の構図は二匹の龍が球と戯れるもので、少し変化は感じられますが作り方から考察すると九龍の間では何らかの関わりがあっても、堅苦しく規則的なものを感じます。北海公園の九龍壁はある程度大同の九龍壁を真似して作られたものと思われるのですが、このように見れば、大同の九龍壁は龍壁のトップだと言う事が出来ます。



北京北海公園九龍壁：中国で有名な三つの「九龍壁」の一つ。長さ29.4m、高さ3.5mもある巨大な瑠璃装飾の壁で、1772年に建造された。(ウィキペディアより)



大同九龍壁：長さは45.5m、高さ8m、厚さ2mです。下部は須弥壇で、束腰の部分に獅子、虎、象、唐獅子、麒麟、天馬等の動物が彫られており、その姿はそれぞれ異なり、躍動的です。(桂林中国国際旅行社HPより抜粋)

※上の写真と下の写真は同じ縮尺です

大同には多くの龍壁が残されています。龍壁は一般に建物の障壁(目隠し塀)とされています。多くは皇宮、親王府、寺廟の入り口に建てられ、建物の荘厳さを引き立てる効果をもっています。

龍は想像上の動物で、原始社会に源を発します。古

代の人々はこの世のありとあらゆる動物の中から力強さと美しさを示す部分を一つに集めて独特の姿の龍をつくりました。数千年来、この龍は中華民族の象徴となっています。また中華民族も常に自らを「龍を受け継ぐ者」に例え、誇りを抱いて来たのです。仏教教典の中で、龍は天龍八部衆の一つとされ、神通力を

持って仏法を守る者とされています。そこで龍は仏教の護法神となり、寺院山門の障壁に龍をデザインしたものが多くなったのです。

この龍壁は2001年に全国重点文物保护单位の一つに認定されました。

国際交流員として2004年から2年間、青森県に来日した鄧仁有さん。その後帰国され、山西省太原市にある旅游学院の日本語ガイド養成コースで教鞭をとられています。これから数回、鄧さんが執筆した日本語ガイド資格試験用テキストから、山西省の名所旧跡をご紹介します。